日児誌2010年12月号（114：2014-2015）掲載

日本小児科学会こどもの生活環境改善委員会

Injury Alert（傷害注意速報）

No. 21　室内用ブランコの部品による頭蓋内損傷

事　例		年齢：3歳0か月　　性：女
傷害の種類		眼球・頭部外傷
原因対象物		アンパンマンのブランコパーク DX　（写真1）W1,850 × H1,100 × D1,250
臨床診断名		眼球結膜裂傷，頭蓋内異物，外傷性脳室内出血 症候性てんかん，尿崩症，運動性失語
発生状況	発生場所	自宅　2階の子ども部屋
	周囲の人・状況	姉（4歳）と，弟（1歳）と遊んでいた．周囲に大人はおらず，母・祖父が3階にいた．
	発生時刻	2010年7月19日　午後3時半
	発生時の詳しい様子と経緯	室内用遊具（ジャングルジム，滑り台，ブランコが一体となったもの）で遊んでいた．ブランコを支える棒の両端に17cmくらいの金属製の棒が差し込まれており，これは高さ調整のために固定されておらず，子供でも容易に引き抜ける状態であった．兄弟で遊んでいたときに，児の右眼球に棒が刺さり，姉が引き抜こうとしたが完全には抜けず，弟が3階の母を呼びに行った．どうして刺さったかは目撃者がおらず，不明であった．
治療経過と予後		救急車にて当院に搬送となった．来院時，泣き叫んでいたが，意識はクリアであった．頭部CTにて右眼窩から頭蓋底を貫通して金属棒が位置しており，また脳内を貫くように左頭頂葉に高吸収域を認め，この部分に金属棒が刺さっていると推測した．救急外来で鎮静下に抜去を試みたが出来ず，全身麻酔下に開頭術を施行し，ようやく抜去することができた（写真2）．結果的には頭部CTには写らなかったプラスチックの部分が引っかかっていたことが判明した．手術翌日には抜管でき，翌々日には経口摂取も可能となった．受傷後4日目から高ナトリウム血症が出現し，尿崩症としてデスモプレッシンの点鼻等を施行しているが，いまだ安定していない．また，受傷後6日目より全身性の痙攣が出現し，抗痙攣薬にてコントロールを施行している．現在は生命の危機は脱したが，運動性失語も見られ，今後の発達への影響が懸念される．

【こどもの生活環境改善委員会からのコメント】

1. 一般家庭で使用されるジャングルジムやすべり台，ブランコ，鉄棒などの複合遊具での重篤な事例である．
2. 17cmの金属製のピン（写真2）が右目の内側に刺さり，先端は後頭部にまで達していた．なぜこのような傷害が発生したのか推測することはむずかしいが，ピンが眼窩を通して脳内に到達するには，かなりの力が作用したと思われる．すなわち，女児が高所から転落したときに刺さったものと思われる．
3. ピンは鉄棒の両端付近（高さ約1m 20cm）に2本ついている．ピンを抜くのはジャングルジムの高さを変えるときや解体・収納するときで，通常は約5mm突き出た状態で遊具に入り込んでいる．今回の事

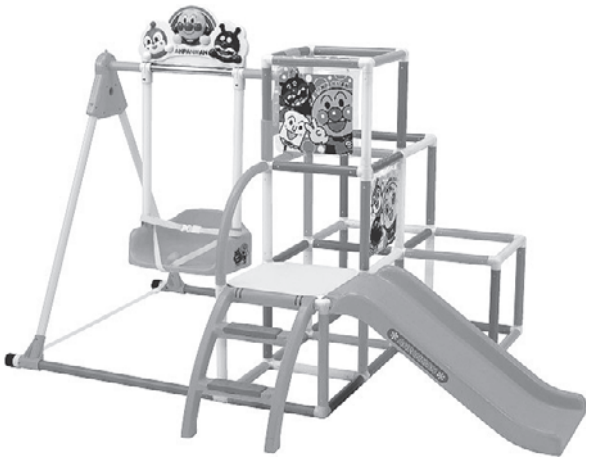

写真1　製品の全体像

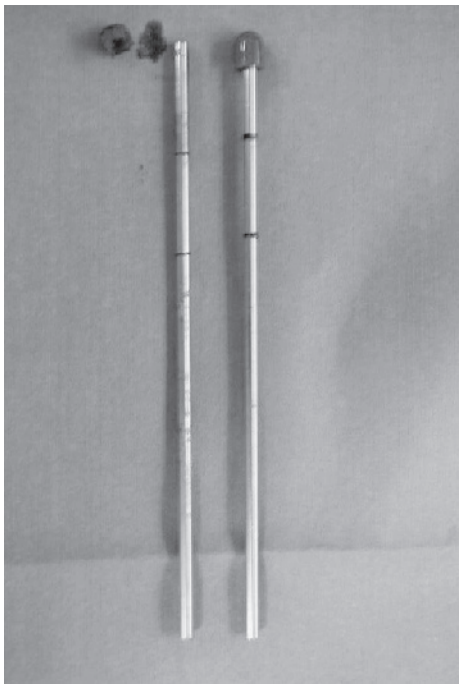

写真 2　金属棒

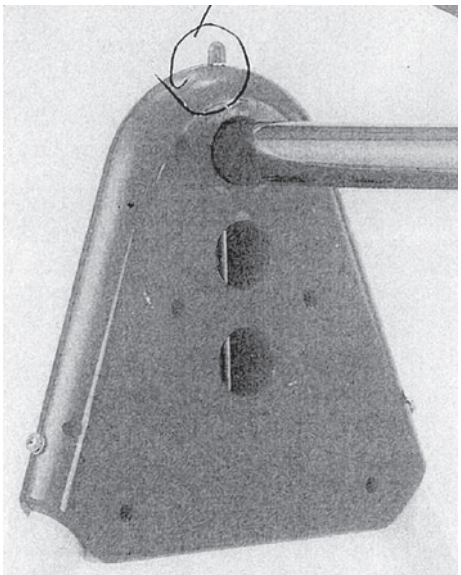

写真 3　遊具の突起を大きく拡大した写真

故の製品ではピンは固定されておらず，子どもの力でも容易に引き抜ける状態であった(写真 3)．ピンが固定されていなかったことが最も大きな要因であったと思われる．

4. 同じような構造を持つ遊具，また小児が接触する可能性がある製品に対して，早急に構造を再検討する必要がある．
5. 本事例では，8 月 10 日に消費者庁が公表し，事故の発生から 25 日後 (8 月 13 日) に，製作会社によりリコールが行われた．これらのタイム・ラグについて，一日でも短くなるよう，情報の伝達システムについて検証する必要がある．